北斗

金沢医科大学北斗会会報

No.15
2005
金沢医科大学 北斗会

題字　西東利男初代会長

北斗　第15号　平成18年１月20日発行　編集・発行　金沢医科大学北斗会　金沢医科大学教育研究事業推進室内（内線2720～2724）
〒920-0293　石川県河北郡内灘町大学1－1　TEL（076)286－2211(代)　FAX（076)286－8214

目　次

◆会長挨拶　集学的医療センター設立によせて ……奥名　洋明 ……3
◆大学のこの１年 ……4
◆寄　稿
世界奇行（8）　「雷鳴は龍の叫び」 ……佐野　泰夫 ……6
おかげさま ……中野喜代子 ……10
ビールとジョギング ……山田　克己 ……11
永遠の美をもとめて ……新館5階の自然人 ……12
たくあん漬けに寄せる思い出 ……本田　俊幸 ……13
私のサポーター ……斉藤久美子 ……15
言　葉 ……伊藤太枝子 ……16
私の趣味 ……N.Y ……17
子供といっしょに ……中村　恵子 ……17
最近、ふっと思ったこと ……盛口　美保 ……18
いたましい事件 ……能登むつみ ……19
マツタケツアー ……萩原　憲子 ……20
◆叙勲・表彰
私の叙勲「瑞宝双光章」 ……岸本トキ子 ……21
文部科学大臣表彰を受けて ……西村　栄子 ……22
◆会員からの写真展（新規） ……22
◆第７回北斗会懇親・懇談会開催 ……24
◆決算・予算＜報告＞ ……25
◆事務局だより ……27
◆編集後記 ……28

集学的医療センター設立によせて

金沢医科大学北斗会
会　長　　奥　名　洋　明

全国都道府県教育長会の47名は四つの研究部会に分かれて所属している。私は当時、学校教育部会に入っていた。山形での研究会の折に出席していた文部省の幼稚園教育課の係長が発言。「県により、市町村により、幼稚園と保育所との設置率がまちまちであるから、幼稚園の設置拡充に努力して欲しい。」という。私はいささかこの問題に関心をいだいていたので発言した。「核家族化、共稼ぎが増加している。両者の教育内容は殆ど同じ。教諭と保母という資格はどれ程の差があるのか。片や午前中、他方は終日。住民はどちらを選ぶ人が多いかは自明の理。選挙で上る市町村長はその要望に応ずるであろう。生活者の目からは、幼保の設置率など問題外の筈。」と。あわてた議長（山形県教育長）は、もう時間が無いので、この問題は、又、別の機会にと逃げて会議は終了した。

その夜の宴会の席、皮肉にも私の隣が件の係長。「先程はどうも。」というと、彼曰く、「私はいいんですが、ウチの課長は大変です。課の中で、保育所なんかブッツブセーと怒鳴るんです。本当なんです。」と。私はア然とした。幼稚園が無くなったら、先輩課長達に申し訳ないということか。又、係長は若いから他の部局へ転ずるであろうから、私はいいんですということなのかと推し量って見たが、暗然たる思いであった。小泉さんは行政改革というが、各省庁の官僚達の抵抗で大変だろうと心配ではある。

さて、集学的医療センター設立は、その記念式典で谷本知事が「縦割の弊害を乗り越えて、患者本位の医療サービスに踏み切ったことに心からの敬意を表したい。」と祝辞を述べておられたが、全く同感であるし、センターが設立の趣意どおり運営されるならば、患者にとって、大きな福音となることは間違い無い。願わくば、全学あげての理解と支援を望みたいものである。

大学のこの１年

１年間を振り返って　大学の活動を紹介します。

（平成16年９月～平成17年８月）

平成16年

９月26日 平成16年度互助会夏・秋のバス旅行（京都：26名参加）
10月２日 第33回内灘祭～３日（テーマ：ＥＮＥＲＧＹ）
10月２日 第29回看護専門学校看学祭～3日（テーマ：感謝）
10月16日 第32回解剖体合同追悼法要
10月17日 平成16年度互助会夏・秋のバス旅行（信州：30名参加）
10月20日 平成16年度保健医療講習会、２回目11月18日にも開催
10月23日 金沢医科大学総合医学研究所　市民公開セミナー（金沢市文化ホール）
10月24日 平成17年度医学部ＡＯ入試２次選考、29日合格発表（10名合格）
10月27日 平成16年度実験動物慰霊祭
10月29日 学生の表彰（課外活動において優秀な成績を収めた団体および学生）
11月５日 第6回金沢医科大学北斗会懇親・懇談会（90名）参加
11月11日 互助会文化祭～17日
11月14日 平成17年度医学部推薦入学試験（72名受験）26日合格発表（20名合格）
11月17日 平成16年度災害訓練
11月20日 平成16年度解剖学実習御遺骨返還式、文部科学大臣感謝状伝達
11月20日 第10回地域医療懇談会開催（48医療機関、50名出席）
11月21日 平成17年度医学部編入学試験（79名受験）26日合格発表（７名合格）
11月26日 平成16年度永年勤続表彰（37名表彰）
11月28日 平成17年度看護専門学校推薦入学試験（43名出願）、12月６日合格発表（16名合格）
11月28日 平成17年度看護専門学校社会人特別推薦入学試験（31名出願）、12月６日合格発表（４名合格）
12月１日 平成16年度石川県私立学校教職員教育功労者知事表彰（28名表彰）

平成17年

１月12日 平成17年度看護専門学校一般入学試験（193名出願）、１月24日合格発表（92名合格）
１月19日 平成17年度医学部一般入学試験（2,133名出願）、１月22日合格発表（345名合格）
１月26日 平成17年度医学部一般入学２次試験（345名受験）、2月1日合格発表（69名合格）
２月26日 平成16年度総合医学研究所研究セミナー（病院本館4階C41講義室）
３月３日 第28回卒業証書・学位記授与式（86名卒業）

北斗

3月4日 看護専門学校第17回卒業式（50名卒業）
3月11日 第31回教育懇談会（講師：文部科学省高等教育局医学科教育課石野利和課長）
3月16日 平成16年度精神病院実地指導及び在院患者実地審査（精神障害者福祉に関する法律第38条の6）
3月24日 第20回博士学位記授与式
3月29日 第94回看護師国家試験合格発表（50名受験、49名合格）
3月30日 第99回医師国家試験合格発表（89名合格）
4月1日 平成17年度新入職員辞令交付式（新入職員95名）
4月1日 病院新入職員オリエンテーション～4日
4月1日 高島茂樹病院長就任
4月5日 第34回入学宣誓式（106名入学）
4月6日 看護専門学校第18回入学式（54名入学）
4月11日 第2回白衣・聴診器授与式（第3学年95名に授与）
4月11日 金沢医科大学後援協力会、幹事会・総会・懇親会開催（ホテルイン金沢）
4月16日 第27回納骨式（30柱）
5月23日 第1学年早期臨床体験実習～27日（県内10施設）
6月1日 第15回互助会ゴルフ大会、第15回医科大オープン開催
6月10日 第18回看護専門学校戴帽式（60名）
6月10日 看護専門学校学生寮の防火訓練
6月12日 平成17年度金沢医大後援会橘会総会開催
6月14日 臨床教授（学外）委嘱状授与式並びに学外臨床実習に係る懇談会
6月16日 名誉教授の称号授与式
6月30日 第32回教育懇談会開催（講師：マーサー大学医学部Family Medicine 助教授Dr.Hash）
7月1日 第33回解剖学実習解剖体納棺式
7月2日 石川県民大学校「健康管理講座」開講（53名申込）～10月29日
7月9日 金沢医科大学北辰同窓会、評議員会、全国支部長会開催
7月13日 平成17年度石川県大学図書館協議会定例会議及び後援会開催（13館20名出席）
7月16日 金沢医科大学医学会30周年記念式典・祝賀会
7月16日 金沢医科大学医学会第31回総会・第41回学術集会開催（97名参加）
7月24日 平成17年度金沢医科大学オープンキャンパス開催（8月7日、28日にも開催）
8月1日 平成18年度医学部入学試験説明会開催～4日（金沢、札幌、仙台、名古屋、大阪）
8月4日 第26回関連病院会議　於：ホテル日航（61関連病院、65名の病院長、事務長参加）
8月9日 高校生の看護学校体験入学～10日（延べ138名参加）
8月30日 平成17年度医療監視

寄　　稿

（掲載順序は原稿をいただいた順としました。）

世界奇行（8）　「雷鳴は龍の叫び」

佐野　泰夫
（元副理事長）

1．時空を超えて

時空（じくう）とは、時間と空間。時空世界とは、第三次限と第四次限の夢幻の世界。

加齢が進むと、庭へ出てボンヤリと坐る。20坪の和、洋庭で黙考する。

茶室から「かけひ」と「つくばい」、織部の灯籠を眺め、茶をたしなみ、水の音を聴く。築山（つきやま）に、自然石の踏石と、40本の高木、中木、低木。春日と雪見灯籠が、四季折々の花と香りに映える。野鳥が「つくばい」に落ちる水を飲みに来ると、洋庭の芝生に寝ころぶ。青松、赤楓、緑マキの枝ごしに、天空を見る。

行雲が流れると、私は、茫々たる時空の世界へ飛ぶ。遠くて、知らない、ランド・オブ・ミステリー（秘境）へ飛ぶ。

SPARKING（放電・花火・変幻・四次元）

2．女性ヴォーカルの抒情歌

「遠くへ行きたい」は、永六輔の作詞・中村八大の作曲。昭和37年に、ジェリー藤尾が、哀調をこめて歌ったヒット曲だ。作曲家の中村八大は、「レコード大賞」の選考で、「作曲賞」を受ける。当時は、「王将」とか「可愛いいベビー」が流行し、内灘村が「町」になった年。……それから43年。女性ヴォーカリストの森山良子や倍賞千恵子らが、今でもCDで情緒たっぷりと「遠くへ行きたい」を歌っている。私の好きなメロディの一つだ。だから私も口ずさむ。

〽知らない街を　歩いてみたい　どこか遠くへ行きたい　（中略）遠い街　夢はるか一人旅　愛する人とめぐり逢いたい　どこか遠くへ行きたい

3．聞鶏起舞

「ウェン．ヂー．チーウ」は、中国の古諺。鶏が鳴けば、即、起きるの意味。「早起きは、三文の得」は、日本の古諺。「早寝早起き」は、ＨＥＡＬＴＨＹ（健康）、ＷＥＡＩＴＨＹ（富裕）、ＷＩＳＥ（利口）になるは、英国の諺。私のライフ・スタイルだ。

朝、４時半に起き、６時に近くを散歩する。段々畠の山頂に陽光が、ほほえむと、清純な空気を胸いっぱいに吸う。「至福」の世界に浸る。……段々畠から、馬が一頭、その背後から、馬の背中の荷よりも、重そうな荷を担いだ男が歩いてくる。……私は、「お早う」と声をかけると、男は、はにかみながら「クズザンボーラ（こんにちは）」と答えた。

雷龍国の子供

男は、日本の着物に似たドテラ風のものを着ている。ここは、ヒマラヤ山麓の秘境で、「ドゥルワク・ユル」（雷龍王国）だ。男も女も、大人も子供も、民族衣装の着物を着ている。顔も、日本人に似ている。タイム・スリップをして、明治、大正、昭和初期の着物姿にも似た衣服を見て、時空世界へ来た！と思った。粗朴で親切で、やさしそうで、平和で、慈悲の心で、虫も殺さない国の人だ。

ホテルへ戻ると、部屋のカーテンに、蛾が一匹いる。２日前に、リニューアルしたというが、部屋も、トイレも、水も悪い。こわれかけた電気ストーブをつけると、蛾が動き出す。私は、慈悲の心で、蛾と共生することにした。私らに同行したドライバーたちは、ホテル前の空地へ、テントを張って寝ている。気温7度だというのに、外で寝ている。

ここは、雷龍王国第二の都会パロの郊外で、標高2300ｍ。朝と夜は寒い。春３月の季節から、田園も活気づいてくる。桃源郷には桜の花のような白いマグノリアが、私を誘う。雷鳴は、龍の叫び声で、吉兆であり瑞祥のシンボルという伝承を信じている人々の国へ、私は来ている。長い間、外国人を受け入れなかった秘境へ来ている。輪廻（リンネ）転生を信じ、死はまた生きかえるから、墓も位牌（イハイ）も作らないし、空を飛ぶものや水の中を泳ぐものは、「聖なるもの」だから、鳥も魚も食べないという風習も、蝿や蚊を慈悲の心で、殺さないという気持も、否定しないことにした。自然の中に、精霊や神がいると信じる人々は、世界のどこにでもいるからだ。日本でも、「山岳信仰」といって、古代から、山の神様を崇拝し、初日の出を崇めている。立山では、雄山山頂を浄土として、９世紀末から、修験者の登拝があり、白山は、717年、越前の行者、泰澄（たいちょう）が開山して、全国へ白山信仰が広まっている。最澄（767～822）の比叡山、空海（774～835）の高野山も、山岳仏教が誕生したところだった。世界遺産の熊野霊場と参詣道も、「聖地」であろう。……でも、蝿や蚊、蛾は、好きではない。鳥も魚も食べたい。不信心の私は、ミネラルウォーターと缶詰、虫の忌避剤と、かゆみ止めと、トイレットペーパーと、消化剤、下痢止めを、ゴマンと持参して旅をつづけた。……時空世界でも、部屋へ帰ったら、服のホコリを取ることにした。帰国して、７日後に、次の時空世界の旅があるので、体調を落とさないための手段である。

子守りをする少女

マグノリアの並木

4．龍は、悪しき動物？

東洋、特に仏教国では、瑞祥で、平和のシンボル。西洋では凶暴で恐怖の動物だ。紀元前の孔子や古代詩人の屈原（ＢＣ343～277）も、龍の存在を信じている。中国の皇帝は、自分の顔を龍になぞらえて「龍顔」と呼ばせ、衣服を「龍袍」と称した。日本でも、日光の社寺の「鳴き龍」は、国宝。ベトナムのハロン湾（世界遺産）は、龍が湾に降りて、外敵の侵入を防いだ守護神で、後、岩に変身した平和のシンボル。旧約聖書や新約聖書のドラゴンは、凶暴な悪の化身。日本の国技の大相撲の象徴は横綱だが、力士名は、強そうな名前をつける。第10代横綱の力士名は、雲龍久吉。土俵入りは、雲龍型と不知火型があるが、雲龍久吉は、文久元年9月に、雲龍型土俵入を考案した創始者で、優勝7回の傑物。今、 朝青龍も、威勢の良い横綱として、連続優勝している。龍は、悪しき動物ではなく、敬愛される動物なのである。

龍の化身・ハロン湾

5．ツェチュ祭

春になると、ヒマラヤ山麓に仏教を伝えたパドマ・サンババの布教活動を再現し、その威光を悪霊たちに再確認させるための法要を５日間行なう。人々は、一家総出で、盛装して、祭に行く。太鼓の音、チャムという仮面舞踏、見るだけで解脱できる大仏画トンドルの開帳、屋台店もあってお祭り気分。人もいっぱい。ダルシンという旗が霊峰の風にゆれ、人々は、自然の恵みに祈りを捧げる。……私のビデオカメラは、素朴で、しあわせそうな老若男女の群像を撮影していた。

パロのツェチュ祭

6．タクツアン僧院

パロ郊外に、標高3000ｍ断崖絶壁に、「虎の巣」の異名がある僧院がある。８世紀後半の創建。バスで行き、途中、馬に乗り換えて、山道を登れという。「虎の巣」は、天空にいる。高くて遠い所にいる。行きは、よくても帰りは恐い。私は、ロバのような背の高くない馬の顔を見ると、馬も「イヤだナァ」という仕草をする。私は、途中でリタイヤし、馬を引いて下山する。慈悲の心である。

タクツアン僧院

7．龍王の城

首都テインプに、龍王の城がある。

「白檀の木で飾られ、聖俗二つの教えを守る守護者がおわします……」という国歌をもつ王は、四人の妃と「タシチョ・ゾン」（王の政庁）に、おわします。

外観のみの見学。崇高、荘厳。入口で脱帽し、衛兵に会釈しながら城内を見る。フォトは禁止。アフリカのナイジェリアで、オヨ（ラゴス郊外）のオバ（王）の宮殿見学でも、フォト禁止だが、６人の王妃は、気さくに会ってくれたし、バダグリ（奴隷海岸）のオバ宮殿では、64歳の15代目の王は、３番目の王妃ともども、盛装して会ってくれた。フォトも自由。拝謁に際し、貢物を出し、皆ひれ伏したが、私と記念写真も撮らせてくれた。ここの龍王は、時空世界の人だから、会うことも、フォトも、王宮内ものぞくことを禁じている。…と思うことにした。

夜、現地ガイドの責任者が、宴席を設け、カクテル・パーティとディナーのサービス。地酒や田舎料理もあって、ちょっと感激。

でも、案内されたホテルは、三階建なのに、エレベーターはない。部屋に電気のコンセントがないので、電気製品は使えない。シャワーの湯は、すぐ水になる。トイレの水は止まらない。寒い。テレビ、ラジオ、電話がない。ラジオの代わりに、隣の部屋から話し声が聞こえて眠れない。食事はパンと目玉焼きと野菜少々。秘境にあこがれて来たのに、受け入れ設備はお粗末だ。秘境とは、何だろう。辞書によると、「ひきょう」は漢字で11ある。「卑怯・飛橋・秘教・秘経・悲況・悲境・鄙教・比況・比校・比興・秘境」だ。「秘境」は、「人が足を踏み入れたことが、ほとんどない土地・世間に知られていない土地」をいうと定義づけしている。探検家や宗教伝道者、交易商人らしか往来しない未開の地のことという定義もある。疫病や敵襲で倒れる危険区域でもある。私は、秘境にあこがれ、時空世界にいる。不毛の山、川、森、滝があり、神や精霊がいる。太古からの自然と臭いがある。私の愛する素朴な老若男女がいる。物質文明よりも、飽食の世界よりも、粗食に甘んじ、伝統宗教に誇りを感じる人々がいる。

……「秘境」へ来て良かったと思うことにした。帰国して、7日後に、アフリカの秘境、ジンバブエへ飛んでいく。気温35度から40度の灼熱の国へ飛んでいく。観光客誘致の俗化していないホテルが良い、遠くて知らない田舎の街が良い。…と願いをかけて飛んでいく。

おかげさま

中野喜代子
（元看護部）

11月も半ばと言うのに、今日は、晴天に恵まれ、風も穏やかな小春日和です。

地球温暖化の影響の為か、まだ、紅葉が見頃と聞いて、夫と二人で以前から友人に勧められていた“犀鶴線ルートから見る山々の紅葉”を求めて、ドライブに出かけました。

駒帰り大橋を渡って左折し、細い坂道をアクセルをふかし乍ら頂上へ進むと、道添いの木々は赤や黄色に輝き、眼下の山並みは見事な紅葉が広がって、自然の美しさに心が洗われる思いでした。

目線を遠くの尾根伝いに移すと、連山みな、木の葉は散ってしまい、もう冬仕度の様相で、人生の縮図の大パノラマの中にいる二人でした。“おかげさま”で万物に感謝の合掌です。

思えば、私達は今年、結婚五十周年を迎えており、何の変哲も無く過ごして来たようにも思うのですが、こうして山歩きや、自然に親しみながら人生を確認し合って、生きて来れたのは、この大自然の中で多くの方々から頂いたお世話のお陰様だと、心から感謝致しております。

特に、金沢医科大学開設当初から採用して頂き、病院の発展と共に看護職として、活動させて頂いた事は、私の人生にとって最高の誇りであり、幸せに思っております。

近代医療の進歩の中、社会的に予防医学、自己健康管理の関心の高まっている今日、新聞、テレビで金沢医科大学病院の皆様のご活躍が報じられる度に、胸おどり、心から嬉しく、拍手をおくっております。

自宅玄関にて

孫守の為に退職しましたが、孫も高校二年生になり、私は、古希を過ぎましたが、現在尚、看護連盟のお手伝いをさせて頂いている事も、金沢医科大学病院に勤めさせて頂いていたお蔭様と思い感謝致しております。

今月末日には、会計監査を受けるので、少し緊張していますが、書類、伝票類の照合も整い、正確で明確な報告が出来るようにと思っております。

“人生是れ出会い”と言う格言がありますが、これからも“おかげさま”の気持ちで、多くの方達との出会いを大切にして生きて行きたいと願っております。

〔昨年11月投稿しました頃の地球温暖化ニュースは夢のようで、今冬は大寒波に見まわれ、近年にない大雪となっております。〕

北斗

ビールとジョギング

山田　克己
(看護専門学校事務課)

昨年初秋、長良川鵜飼をみる機会に恵まれ、そのとき船上で飲んだビールの美味しかった感動の覚えを今も忘れられない。なぜ、至福のときを過ごせたのか、それはビールを極上で飲める条件がそろっていたからに他ならない。

酒類の中でビールが一番好きな私は、どんな場所、どんな状態でうまく味わえるか、ときどき考え実行することがある。これまでの体験と偏見を交えてランダムに並べてみる。①脳からα波が出やすい自然の中で。例えば一度は行ってみたい世界自然遺産である屋久島、白神山地。近場では白川郷合掌造りの田園の中②こころ持ちゆれる観光バスなどの車窓からさわやかな風を受けリラックスした気分で③ジョギングなどスポーツで汗をかいた後④祭りにおける華やいだ気分と、逆に伝統・ふるさと回帰のようなノスタルジア気分を醸しだす効果も持った中で、この対極をスイング⑤キャンプファイアーなど焚き火を囲んで⑥山頂で疲れを癒し大パノラマを眺めながら。蛇足ながら350ml一本に留めるのでかなり不満が残る⑦センチメンタルジャーニー⑧風呂上り⑨空腹時⑩緊張感から解放されたとき⑪とにかくビールは冷えていることなど。ざっと挙げてみたこれらの事柄が屋形船でビールを飲んだときの雰囲気、状態の中にほとんど含まれていたのである。美味しくないわけがない。

ここで、感情が先走りするきらいをお許し願い、贅沢な時間をもてた当時を顧みてみる。

日中28度という残暑が居座ったような秋晴れの夕方、金華山から下りてホテルに着き入浴、くつろげる浴衣に着替えた総勢15人が観覧船に乗ると周りはもう暗闇で、川面に篝火が映えていた。川上、川下どちらに向かっているのかわからないが、静かにゆっくり進んでいる。出発時、たくさんひしめいていた船も、もう一隻も見当たらない。夜気につつまれ静謐なこのシチュエーションを幽玄というのか。さあ、態勢は整った、ビールで乾杯。酒肴は弁当で中身は暗くてわからないが、ビールは氷と一緒に運ばれギンギンに冷えていた。銘柄は最近あまり飲んだことのないサッポロだ。家ではもっぱらビールもどきを飲んでいるので、麦芽の濃い本物のビールは久しぶりだ。思わず、ああ、うまいと声をあげてしまう。そして1時間後、酔いしれた気分が妖しく最高潮に達したとき、篝火の中で鵜がアユをとる古典的絵巻の場面に誘われていた。

とまれ、私は大好きなビールを中心に毎日の晩酌が欠かせなく、このマイナス習慣だけなら格好の生活習慣病対象者であることは明白だ。しかし、私にはマイナス習慣だけでなく、プラスの習慣を持っている。ジョギングだ。ジョギングの話を吹聴しなければバランスに欠ける。その効用は私の場合、肉体的効果よりもむしろ精神安定剤の方が勝っているようだ。少なくとも心が落ち着き、頭がスッキリする。かつては精神的落ち込みの度合いに比例して気まぐれガムシャラに走ったが、今は有り難いことに、朝、顔をなにげなく洗うがごとく、遅々たる走りではあるが毎日黙々と走る習慣と昇華した。お陰で肉体的にも効果が表れ、昔は季節の変わり目に必ず高熱で寝込んでいた身体が、走り始めてからここ30年弱ほとんどカゼひとつひかなく、体脂肪率も20と低い。それなのに私は健康診断では肥満と依然注意される。

原因は明らかである。飲むために走っているようなところがあり、逆は考えにくい。食事のあとジョギング、ウオーキングできる意志の強い人がスリムになれる。暴飲暴食で簡単に蓄えられる高カロリーが短時間のスポーツで消化される低カロリーより断然多いのは理の当然だが焦燥感に乏しい私は、本学病院の生活習慣病センターの患者としてはもう手遅れかもしれない。

永遠の美をもとめて

新館５階の自然人
（看護部）

お昼のテレビ番組を何気なく見ていたら、森光子氏の美貌のわけについて吉永小百合氏が一日２個以上の卵を摂っているからと話していた。番組は美容整形など一切せずにこの美貌を保っていると話した。その番組を見ながら、かかりつけの美容院で美容師さんが話していた言葉をふと思い出した。「美容整形をしているか、していないかを見分けるには、髪の生え際と口元を見れば大抵わかります。している人は笑うとどうしても斜め上方に、しわが寄るんですよ。」と。森光子氏の美しい笑顔はどうだっただろうか…。

最近美しく老いることについて考えるようになった。人は生まれると同時に死に向かって歩み始める。まさしく、四季がめぐり来るように生と死は繰り返す。これは、自然の摂理で抗うことの出来ない現前とした事象である。

そして老いは誰しもに訪れる。どうしようもない時の流れを人工的な科学技術で表層のみ作り変えても、なんだか虚しい。年齢から考えられない森光子氏の美貌を賛辞した後、マイケルジャクソンが映った。古い話で恐縮だが、ジャクソンファイブの頃のマイケルジャクソンはエマニエル坊やのようでとても可愛らしかった。今、完全に作られたマネキン人形のような顔になった。最近は、美貌を通り越して妖怪のように見えるのは、私だけであろうか。

表面上の美を追究するあまり造りすぎて、今では驚愕すら覚える形相となった。汚いより美しい方がいいに決まっている。最近のテレビタレント達はどの人も美しい。日本人も美しくなったなあと思えるほど、鼻筋通り・目くっきり奥二重、口元愛くるしい。しかし、同じ主治医のせいか同じような顔に見える。美容整形の賜物か、はたまた化粧技術の向上によってなのか、それとも、日本人の容姿が欧米化している所以なのか。最近では、芸能界に入ると数年もすれば、醜女も見違えるように、磨きがかかり美しさを増す。美しくなりたければ芸能界に入るといい。どんな人もそれなりに磨きがかかり、見慣れると美しく見えてくるから不思議だ。その例が久本雅美だ。

女性のあくなき美への追究、痩せたい願望は巨人軍ではないけれども永遠不滅のテーマである。しかし、やせ我慢で言うわけではないが、私は表面的な美しさを追求する女性特有の行動も（最近では一部の男性にも見られる）、それはそれでよしとするが、むしろ、するめ・うる目丸干しイワシのような人間になりたいと願っている。ブランドで着飾った美しい人よりも、農村や漁村で見かける陽に焼けた笑顔のしわくちゃ顔に美しさを感じる。それは、高級料理にはない庶民の気取りのない素朴な料理のように、自然を感じるのである。

自然に流される。自然に身を任せる。自然に逆らわない。

医療も自然に逆らった生は、ある意味で大きな代償を求められていると、最近つくづく思う。うわべだけの美しさに囚われた造形は、人も自然も人工的な手が加わると灰汁のような厭味を感じさせる。

話は変わるが、最近の犯罪の低年齢化の一因に、この上辺だけの社会の在り方が問われているように思えてならない。罪を犯した子も被害者もどちらも哀れに思う。

女性の美と犯罪の低年齢化について考えた時、浮かんだ言葉が《礼儀作法》と言う熟語だった。この礼儀作法という言葉を辞書でくると、礼儀は社会の秩序を保ち他人との交際を全うする為に人として踏み行うべき作法、＝礼節。とあり、礼節は、社会秩序維持に必要とされる行動とある。また、作法を見ると、礼にかなった立ち居振る舞いのしかた、＝行儀とある。さらに、行儀を見ると、

作法にかなうかどうかという点から見た立ち居振る舞い、とある。

美しさの根底に、この礼儀作法があり人を思いやる気持ちがあるのではないか。随分昔、世界の男性達が、日本女性を嫁に貰い、中国料理を食べることが男の幸せだと言っていた時期があった。確かに、一頃の日本女性は大和撫子とも言われていた。ところが、最近では年齢に関係なく女性の男性化・オバタリアン化が進行している。ある意味で、女性全体が図々しく自己主張をするようになった。それは、義務や責任をさて置いた権利の主張である。子育ての中心であるこの日本女性が駄目になったことは、犯罪の低年齢化を育んだのである。かつてあった、自分の死に代えても子を思いやる自己犠牲の気持ちは、皆無。自分が…自分が…世界の中心で自分が…と叫ぶ。このような女性にこそ礼儀作法という内面世界の精神を持っていただきたいと痛切に思う。躾という字は、体が美しいと書く。この字のように立ち居振る舞いが美しい女性こそ、真に美しく子育ても上手と考える。

たくあん漬けに寄せる思い出

本田　俊幸
(学長室)

今年も秋が深まり、漬物用の大根、白菜の収穫時期となった。

我が家のあるところは田んぼと山林のある田舎であり、我が家も狭いながら畑が少々あり年間を通して多少の野菜を育てている。

畑作業は、春の日差しの射しはじめたお彼岸の頃にじゃが芋の植え付けにはじまり、４月に入り夏野菜（きゅうり、とまと、なす、ピーマンなど）、さつまいもなど植え、５月のきゅうりなどの野菜の棚作り、６月に入りたまねぎ、じゃが芋の収穫、夏には、夏野菜の収穫と水やり、９月に入り、たくあん用大根、蕪、白菜、来年用のキャベツ、たまねぎなどの種を蒔き、10月、さつまいもの収穫など、雪の時期を除き年間を通して耕し何かを植えたり収穫したりの繰り返しである。

また、畑は、雑草との戦いでもある。ウッカリしているとたちまち雑草に覆われてしまう。雑草が生えるのを防ぐために、仕方なしに常に耕し何か野菜を植えているような感もなくもない。

我が家では、ずっと一年間を通した漬物として、たくあん、白菜を漬けてきた。昔は、田舎のどの家でもそうであったろうと思うが、大樽に沢山のたくあん、白菜その他を漬けて一年間のおかずとしていた。さすがに最近ではその量も少なくなったが、我が家では少しではあるが今もって年間行事としてたくあん作りをしている。

今年も大根の収穫時期となり、毎年勤労感謝の日の前後に作業スケジュールを組んでいる。まず収穫の前には背戸の軒先に大根を干す棚を組み立て、大根の収穫作業となる。大根を畑から掘り起こし、痛んだ葉っぱと泥を取り除き、洗い場に運

び水洗いし、２本程度を束にして括り棚にかける。それから２～３週間程度日陰干しし、様子を見て12月の初旬に樽に漬けている。また、米ぬかと一緒に柿の皮をまぜて漬けると漬物に甘みが出るので柿の皮をむく毎に集めて干して一緒に漬け込んだり、また酒を少々振り込んでいる。

毎年、大根の出来不出来、気候の影響でたくあんの味は多少異なるが、昔は一度に大量に漬けていたせいか今よりもずっと美味かったような感じがする。

たくあんは、私にとっては欠かせない食べ物となった。食卓にたくあんがないと他におかずがあってもやっぱり口がさみしい。

昔は田舎のどの家でも同じではなかったかと思うが、食卓には畑に取れた野菜類と漬物と味噌汁が並んでいるのが普通であったろうし、毎日、漬物でご飯を食べているようなものであった。極端なことを言えばたくあんで育ったようなものである。

たくあんが食卓の中央に“どどーん”と位置を占めていた。

また、我が家でまだ薪でご飯を炊いていたころは、私も朝起きてかまどに火を入れご飯炊きを手伝った記憶があるが、薪で炊くと釜の底に“焦げご飯”ができる。これに塩を軽く降りおにぎりにしてたくあんと食べるのが毎日の楽しみで、朝食の前にまず一個食べていたものである。なんともいえない香ばしい焦げご飯のおにぎりとたくあんの味が美味かった記憶が今でも鮮明に残っている。

食べ物といえば、今ではスーパーの陳列棚にはありとあらゆる食品が溢れ、また食卓は昔と比較し少し極端な言い方をすると“まるで毎日がお祭りのごちそう”（ちょっと言い方が極端かな？）のようである。沢山の人たちのお世話により食材が供給されてくることは全く有りがたい事であることには間違いなく、感謝感謝ではあるが、ときどき昔を思い出しこんなにあっていいのかな～と“ふっと”変に疑問に感ずることがある。

昔はたくあんをおかずにしてご飯を腹いっぱいたべて、大変おいしく、これで十分に満足で何の不満も疑問もなく当たり前であった。今は多くの食材を口にしながら、焦げご飯とたくあんを食べていた頃のような満足感と有りがたさを忘れているような気がする。自分ながら全くもったいなく、けしからんと思うことがある。

外食やパーティで豪華な沢山の料理が出ておいしく食べさせてもらうこともあるが、しかし最後にはたくあんの漬物がほしくなる。からだに滲み込んだたくあんの味覚と思い出を一生共にしていくようである。

たくあん用の大根の収穫作業をしながら、今から見れば、昔はたくあんだけの簡素な食事であったのに満足で気持ちが豊かであったのかな～などと振り返ったりしている。

また、心の豊かさとは？などとふっと思ったり、私よりずっと若い世代の年齢層の人たちから見るとどうなのかなと思ったりしている。

私は出来ればず～っと我が家のたくあんの味を残し、付き合っていきたいなと思っている。

秋の実りの季節となり、秋の日差しの中、畑でたくあん大根を掘り起こしながら「たくあん」にまつわる思い出などがふっと頭をよぎったので独り言を拙文とし寄稿させてもらいました。

私のサポーター

斉藤久美子
（診療支援課）

先日、十六年も前に他界した祖母の夢を見た。私が小学校の五年生の時から嫁ぐ日まで一緒に暮らした私の大好きだった母方の祖母の夢だ。

私は，友人との旅行を前にデパートで洋服を探していた。パステル調の服を手に取り、あれもこれもと鏡の前で思案していると、祖母が急に隣りに現れた「久美ちゃん、もうお母さんやろ、もっと落ちついたんにしまっし」

祖母は曇り空のような、どんよりとしたグレーの洋服を、一生懸命私に勧めている。「おばあちゃん、もうそんなん流行らんげんよー」

私は、そんな祖母の言葉を背に、自分のお気に入りを手にレジへと並んだ。それでも祖母はニコニコとして、「ばあちゃんが買うてやる」と、嬉しそうにポンとお金を差し出した。「うれしー。ありがとう。じゃあお昼は私がご馳走するね」

祖母と楽しく食事をしているところで眼が覚めた。

私は久しぶりに動く祖母を見てしばらく布団の中から動けなかった。仕事に家事に子育て、毎日を目まぐるしく過ごす私に、エールを送りにきてくれたのだろうか。このまま祖母のことをあれこれ想いだしていると、祖母が亡くなった頃の自分に戻ってしまいそうで、振り切るように、子供達を起こしに寝室を出た。

若い頃から心臓に持病をもっていた祖母は四十三歳の時に末娘の母を命がけで産んだ。いつか母と一緒に暮らしたいという願いが叶って我が家にやってきた。年老いての新しい祖母の暮らしが我が家で始まった。私は大好きな祖母がこれから毎日いてくれるというだけで手放しに嬉しかった。祖母も大切な末娘と、優しい父と孫の私たちに囲まれてとても幸せそうだった。そんな中でも三姉妹の真ん中だった私を祖母は何故か特別に可愛がってくれた。出来の悪い子程可愛いと言うから、祖母もきっと私のことが一番可愛いかったのだろう。（笑）小児喘息だった私が発作を起こすと、祖母は寝ずに背中をさすり続けてくれた。私の呼吸が楽になり、私が眠ってしまってもその手の動きは止まることはなかった。その祖母の手の温もりを私は一生忘れることはないだろう。祖母の笑顔がそばにあると、私はどんなことも乗り越えられそうな気がした。

私が医科大に就職し、病院の受付に配属が決まった時も、祖母は九十歳を目前にしていたというのに、毎日のように内灘駅からバスに乗り、杖をついては私を見に来てくれた。たくさんの患者さんに紛れて、すみっこの椅子にちょこんと座っては、カウンターの中の私を嬉しそうに目で追っていた。

「久美ちゃんの花嫁姿を見てから死にたい」と口癖のように言っていた祖母は、当院で名医と出会い、最高齢と言われる年齢でペースメーカー手術を受け、願いどおり、私の結婚式に元気に出席することができた。私がいなくなって、祖母は、打ち掛け姿の私の写真を、自分の枕元において、それを眺めては眠りについたという。でも、その半年後祖母は家族みんなに看取られ、九十六歳の生涯を閉じた。

いつの日か祖母の夢は、私の子供が見たいに変わっていた。でも最後の夢は叶えられないまま天国へと旅立った。私の体に小さな命が宿った事を知って誰よりも喜び、指折り数えて待ってくれていた。私は一生分の涙が無くなってしまうのではというくらい泣いた。あともう一つの季節を乗り越えてくれたら子供の顔を見せることができたのに。

祖母が亡くなってはじめての春、私は母となった。退院の日、実家へと戻り、私は一番先に、祖母の遺影のある仏間へ子供を抱いて向かった。祖母に元気良く出産の報告をするつもりだったが、包み込むように微笑む祖母の写真が目に飛び込ん

できたとたん、報告も忘れダダをこねた子供のように、思い切り泣いた。葬儀の日以来、涙の嫌いだった祖母の前で、もう涙は流すまいと思っていたが、どれだけ祖母が、この日を待ち侘びていたかと思うと、また新たな涙が、とめどもなく溢れた。

何も知らない子供が、私の腕の中ですやすやと眠っていた。でもどこからか祖母が「久美ちゃんおめでとう。いい子を産んだね」と言ってくれたような気がした。

そして季節が巡り、また病院の一階で患者さんを応対する仕事に就いた。でもカウンター周りを見渡しても、私のたった一人のサポーターはもう何処にもいない。時折、腰の曲がった小さなお年寄りを見掛けると、その姿が祖母と重なり、つい目で追ってしまう。

おばあちゃん、私は今温かい家族とたくさんの素敵な仲間達に囲まれて、とても幸せにしているよ。ずいぶんと遅くなったけど、こんな私のファンでいてくれてありがとう。また夢できっと会おうね。

言　葉

伊藤太枝子
（リハビリテーションセンター）

私は母とよく映画を見に行きます。先日、母がペ・ヨンジュンを好きなこともあり「四月の雪」を見てきました。前評判は、セリフは少ないが感動のストーリーで切ない話である、ということでした。私はよく泣くほうなのでハンカチをもって泣くつもりでいきました。ところが…セリフが本当に少なく、涙をそそるようなセリフもなく、特別映像がきれいということもなく、なんともいえない映画でした。俳優は演技で感動を与えるといいますが、セリフがないと何を伝えたいのか何を考えているのかよく分からないと感じました。冬のソナタでは甘いセリフをいい、女性の心を鷲掴みにしたあのヨン様が…。冬のソナタの最終話だけを見て泣いていた母も「あれはあかんわ」と一言。確かにあれでは…。改めて、言葉の大切さというものを実感しました。

言葉ひとつで、人は悲しくなり、うれしくなり…つらくなったり、幸せになったりします。そして、その言葉のイントネーションや声の質でも与える印象が違ったものになります。映像がなくても、文字を見るだけで、言葉を聞くだけで感動を呼ぶことも、涙をそそることも、笑いをとることも可能です。そう考えると、言葉の力とはすごいもので、言霊とは本当にあるものだと考えさせられました。

私は、言葉を仕事にしています。なかなか大変なものを仕事にしてしまった…と感じる毎日です。「言ってくれないとわからない」と患者さんの家族の方はいいます。大体のことはジェスチャーや長年連れ添った勘で通じあっているのですが、それ以上のもっと細かいことを感じ取っていたようで、また感じ取って欲しいようです。訓練を行っていても満足できる結果を出すことはなかなか困難です。しかし、ここであきらめず、なんとかして満足できる結果を出せるよう、心を引き締めて、そして使う言葉にも気をつけながら仕事をしていかなければいけないと、改めて実感しています。

私の趣味

N.Y
（中央臨床検査部）

現在茶道のお稽古に通っている。習い始めたきっかけは友人の誘いである。習い始めて十年ほどになる。習い始めた当初は新しいお手前を習ってもすぐに覚えることができたのだが、近頃では新しく習ったことをなかなか覚えられなくなったばかりでなく過去に何度もお稽古したことすら忘れるようになってきた。

初めてのお稽古でのことだが、私の興味は床に飾られる花に注がれた。床に飾られていた花は今までみたことが無く、後でサンダーソニアという名と知ったが、その可憐な姿が忘れられず後日花屋に足を運び運良くあった一輪を購入した。お稽古に行くたび床には季節の花が生けられている。以来私は茶花が大好きになり、園芸店に足を運び自分の気に入った花を購入し育てるようになった。

床に飾られた花を眺めながらお茶とお菓子をおいしくいただくといった週に一度のお稽古は、私の楽しみのひとつとなっている。

子供といっしょに

中村　恵子
（リハビリテーションセンター）

現在、私はこれまでの人生の中で一番と言えるほどに、もてている。といっても、２人の息子（異性には変わりない！）にもてているのだが、それはもう毎日、束縛・奪い合い・嫉妬といった昼のメロドラマ顔負けの状態。２人にふりまわされ、自分の時間はもてるはずもなく、以前は良くしていた読書もあまりしなくなったが、それでも時々読み返し、何度も読んでいる本がある。

一つは、「リトル・トリー」という本で、主人公の男の子がインディアンの祖父から自然の美しさ、厳しさ、自然とともに生きるということを学んでいくという内容の本である。

もう一つは、「センス・オブ・ワンダー」。作者であるレイチェル・カーソンはアメリカのベストセラー作家で海洋生物学者でもある（有名な著に「沈黙の春」という人間による環境汚染についての本らしく、内容が重そうなそちらの本は読んでいない）。姉の遺児である２人の姪を育てており、この本では姪の息子と浜辺や森の中を探検し、星空や夜の海を眺めた経験をもとに、自然の中にある生命の輝きや驚き、自然のすばらしさに感動することの大切さについて書かれている。

私の子どものころはどうだっただろう。私が住んでいた町は、駅に近い住宅地であった。遊び場といえば公園のほかにはスーパーの駐車場などで、日々の暮らしの中で自然にふれることはあまりなかった。しかし、父の実家が山手にあり、盆や正月などは父が周辺の野山に連れて行ってくれ、散策した覚えがある。父は、きっと自分が子どものころを過ごした場所を私に伝えたいという素朴な願いから連れ出してくれたのだと思う。父が教えてくれる、四季の小さな変化は私にとって

とても楽しい思い出となっている。

そんな私も子どもを持つ身になっている。結婚して現在住んでいる場所は、「トトロ」でも出てきそうな自然たっぷりの場所。２つの本のようにとはいかないが、父のように子どもたちに自然の中にある楽しさを教えてあげられたらなあ、そして子どもといっしょに自然に感動できたらと思っている。よちよち歩きの頃から家の裏にある山によじ登り、泥だらけになって遊んでいる息子たちには大きなお世話かもしれないが、、、。

最近、ふっと思ったこと

盛口　美保
（元解剖学Ⅱ）

夏だと思っていたらいつのまにか秋が過ぎ、そしてまもなく冬になろうとしています。

「一雨ごとに寒さが増してくるでしょう」天気予報で言ってました。今、紅葉が真っ盛り。ついこの間まで、日焼けを気にしていたのに今はもう暖房だ、年賀状だ…とあわただしいものです。時間の流れるスピードが一番速く感じる頃ですね。

いつもこの時期になると、飽きもせず凝りもせず同じことを初めて味わったかのように感じています。人間は自然に対しては結構つつましくおごりのない素直さで、そのたびごとに感激したり、感動したりするものですね。

高校生の息子は時々「ビミョー（微妙）」「フツー（普通）」と言います。なんと乏しいボキャブラリーかとも思いますが、人生の機微を知り（微妙）、あたりまえを知ること（普通）も考えようによっては大事なことかもしれません。この頃、子供達が社会の中で普通では起こり得ない事故や事件に遭遇しています。ある新聞のコラムに『子供を社会集団の一員に育ててやるためには、わが子をいつまでも特別な取扱説明書を必要なままでいさせることは得策ではありません。親にとっては子供は宝でも、他人にとってはただのガキ』と書いてあるのを読んだ時になるほどと思ったものでした。携帯電話やメールの普及で簡単に連絡が取れてしまうことが「時期を見ること」や「じっくり考える」ことの多少の妨げにはなるにしても、その短所を補って余りある長所があるならば「上手く使う」ことを覚えなければいけないということなのでしょう。便利アイテムに囲まれてありがたい社会ではありますが、それを使っているのは今も昔も人間なんですよね。この社会の中でなんとか恥をかきながらでもうまくやっていける柔軟さを十代の大半を過ごす学校生活の中でどんどん身につけていって欲しいものです。そうこうしているうちに友達関係を通してでもビミョーな人間関係やフツーであることのありがたさなどを実感することもあるでしょう。幼稚園や小学校時代に親が先生と取り交わした「連絡帳」は卒業して、子供達は伝えるべきことを自分の言葉で伝える時期が来たとすればそれが「自立」なのでしょう。「取扱説明書」はもう必要ありませんね。

いたましい事件

能登むつみ
（中央放射線部）

最近　いろいろな事件が相次いで発生しています。あまりにも頻繁に起きているせいか、不謹慎ですが最近では麻痺してしまい、あまり驚かなくなったような気がします。しかし特に親が子供を、子供が親をいたぶる事件は聞いただけでも胸が痛くなります。

先日から、テレビの報道で流れてくる事件で、女子生徒が、母親に毒物を飲ませて、その体の異変を記録として書きしるしていく事件には耳を疑いました。とうとうお母さんは幻覚までおきて入院し、重態だそうです。他にも動物の死骸や生物の死骸がその学生の家の内・外から発見されているということです。その生徒が書いた文章がテレビで公開されていますが、内容は非常に卑劣でひどいものです。本当に残酷で信じられない思いです。

そんな折の10月27日、私は趣味の「よさこいソーラン」を通じて、ある中学校に行き、生徒さんと交流する機会を得ました。自分の子供は学校を卒業して大分たつので、懐かしさや戸惑いの心境でした。

当日は、文化祭ということで、校長先生や係の先生に案内され、生徒さん達といっしょに、趣味を共に楽しむという設定のものでした。各部屋でいろいろな催し物をしており、生徒さんは一通り廻って体験するというしくみです。

はじめのうちは、私達の所へ訪れる生徒さんは少なかったのですが、途中から徐々に参加者が増え始め、気づいたら小体育館がいっぱいになっていました。それは、こちらから積極的に声をかけてあげて、励ましてあげると、彼らもかわいい爽やかな笑顔で答えてくれて、少しふざけたり、くだけたりして、生徒さんと同じ空間に自分達も入りこみ、皆で意気投合できたからだと思いました。特に男子生徒はとっても素直で「上手やね～、後でサイン頂戴ね！」と冗談半分に言うと「わかった。わかった。」と手でOKサインをくれました。私も自分の年を忘れて老体にむちを打ってハッスルしました。この元気で素直な生徒さん達の笑顔を見ていると、前項に記した残酷な事件など起きうるはずが無い、またあってはならないことだと痛切に感じました。

各家庭では日頃から、親と子供の間でいろいろな決め事や話し合いをしているでしょうし、各学校でも規則や約束事は当然あると思います。私は、子供が成長して何か問題が起きた時に、親自身がとまどい、いきなり叱ったり、そんな事全然知らなかったと言ったり、親だからと言って急に強く叱ったり、逆にうちの子に限ってということのないよう、小さい頃からの親子の関係が大切だと思います。子供は、何かある時は必ず親に対して信号を出すので、訴えている事を見過ごすことないように、親は子供に寄り添うことも大事だと思います。また、子供のその時、その時の行動・気持・言動を理解しようと努力する上で共に成長させてもらっているのだと思います。

本当に今回の事件は、私自身とても考えさせられましたし、親子の在り方を見直す機会になりました。こんな悲しい事件が二度と起きない事を願ってやみません。

マツタケツアー

萩原　憲子
（リハビリテーションセンター）

先日、友達に「珠洲にマツタケを食べにいこう」と誘われ、行ってきました。

メンバーは、私の同級生７名に、友達の職場のおばちゃん達７名。年齢は50～60前後くらいでしょうか。全部で14名。車２台で行って来ました。

まず、行ったのは輪島の朝市。おばちゃん達がどうしても行きたいとのことでした。おばちゃん達はそこでたくさん買い物をしたようです。帰りにたくさんの袋をさげて戻ってきました。朝市で印象に残ったのは、帰り道に待ち構えているかのような鷲（鷹？）でした。おばちゃんがくれた魚の塩焼きめがけて襲い掛かってきたのです。塩焼きを隠しながら車に急いで乗り込まなければいけませんでした。

お昼は珠洲の谷野旅館というところでマツタケ料理を載きました。マツタケご飯、マツタケのどびん蒸し、マツタケの焼き物、マツタケ入り茶碗蒸しというマツタケづくし＋新鮮な海の幸でした。座敷に上がり、御膳で食べました。おいしく、また十分すぎるくらいの量があり大変満足でした。帰りにラップをもらい食べられなかったご飯をもって帰ってきました。

天気はここから雨になってしまいました。雨の中、見附島を見物。写真をとってすぐに車へ。その後はハーブの丘に行く予定でしたが、この雨のため中止することになりました。ここで、おばちゃんの一人が「ベランダーは行かんのか？」と発言。ラベンダーと言いたかったらしいです。

その後、能登空港に行きました。しかし、トイレに行っているうちに、飛行機は飛び立ってしまいました。プラネタリウムにもよる予定でしたが、予約が必要で３時までとなっていました。その時３時半。残念ながら見ることはできませんでした。

そして、帰ってきて、近くのお好み焼きやさんで夕食。打ち上げをしました。

今回は同級生だけではなくおばちゃん達とのツアーはとても新鮮でちょっとのことでも笑いが絶えない楽しいツアーでした。

おばちゃんたちと一緒に行動して、年をとってもこのようににぎやかにいられるのはいいな～、こんな風に年をとっていきたいな～と思いました。

叙勲・表彰

私の叙勲「瑞宝双光章」

岸本トキ子
（元看護部）

「ばあちゃん、じいちゃんのお葬式の時みたいにお花あるねえ」とは今回の叙勲を祝って「お花」が次々と届けられる光景を見ての孫の感想である。

葬儀の供花をひき合いに出すとは、なんと不謹慎な！！と思いつつ、私は花々に囲まれ幸せでした。

県庁での伝達式を皮切りに皇居での謁見、いくつかの祝宴も開いていただき忙しかった霜月も終わろうとしています。

今回の受賞を「おめでとう」と祝辞をいただくのと併せて「良かったねえ」と労ってくださる方も多くいらっしゃいました。私の叙勲を心待ちにしていた方も多かったようです。そのご期待に添えてホッとしているのも事実です。

更に私の叙勲は私の後輩達にも勇気を与えたようです。任務を懸命に頑張っている彼女たちに途絶えることなく機会のあることを願っています。受賞は求めていただけるものでも、順番でもたらされるものでもありません。多くの方々のお心添え、お力添えあっての賜物です。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後とも健康に気をつけて、担っている役割を通して地域の福祉向上に努力致したく思っています。変わらずご厚誼のほどをお願い申し上げます。

厚生労働省ロビーにて

（瑞宝双光章）

瑞宝章

明治21年に制定されました。勲章のデザインは、古代の宝であった宝鏡を中心に大小16個の連珠を配して、四条ないし八条の光線を付し、紐（ひも）には桐の花葉を用いています。

文部科学大臣表彰を受けて

西村　栄子
（看護部）

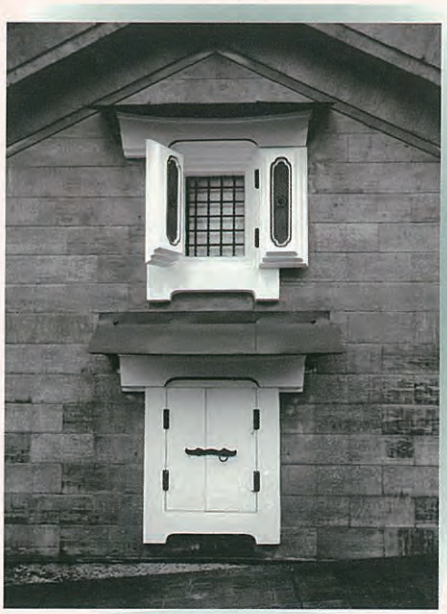
このたび、平成17年11月21日に東京のホテルフロラシオン青山において、全国から集まった83名の方々と一緒に、文部科学大臣表彰という素晴らしい賞をいただきました。大変光栄に思います。当日は、明治神宮外苑のイチョウ並木が少し紅葉し、秋晴れの暖かな日でした。式典終了後に、文部科学大臣と親しく写真を取っていただく機会を得ましたが、思いがけず大臣が孫を抱いてくださりとても感激しました。

昭和57年４月１日に就職して（内科外来、４F病棟、別館６F病棟、整形外科外来と勤務）以来、数多くの患者様や素晴らしい先生方や看護師さんに出会い、医療のことは何も知らなかった私でしたが、いろいろな事を経験し学ばせていただきました。看護助手業務のコーディネートもさせていただいているなか、一期一会の言葉どおり、一人一人の患者様に接する機会を大切にし、今回の病院機能評価のとりくみに少しでも役に立てるよう心配りをしています。それに立派な病院新館で、素晴らしい風景が一望できる環境で働ける事にも感謝し、今後も仕事に努力していきたいと思います。

会員からの写真展

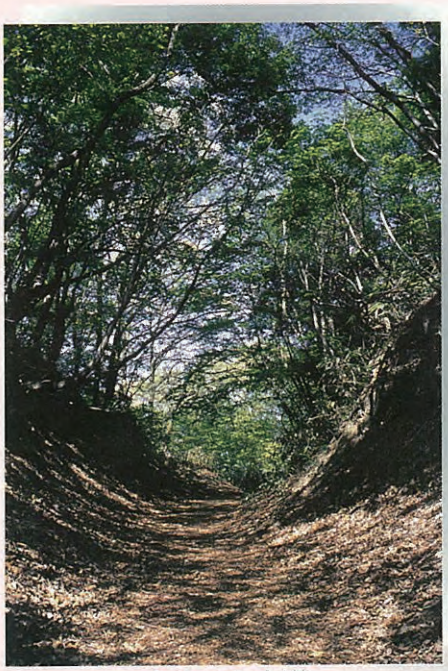
タイムトンネル

冨田晃子さん（看護部）



蔵（くら）

田中房江さん（ME部）



くりから古道

山　　場

土田壮一さん（教学課）

形　　相

バトンタッチ

第7回北斗会懇親・懇談会開催

平成17年11月２日（水）午後７時から、金沢市内の「ホテルイン金沢」において、第７回北斗会懇親・懇談会が開催され、130名を超える多くの会員が出席しました。

奥名洋明会長の開会の挨拶に続き、山本達学長が来賓を代表して挨拶されました。その後、竹越襄副理事長の乾杯のご発声でにぎやかに懇親の宴が始まりました。

今回の催し物には、北斗会員が大勢参加している地元のよさこいグループ「うちなだ愉快な仲間たち」であり、参加者全員が鳴呼を打ち振り、約30名のメンバーに会員も加わり、会場いっぱいの「よさこいそーらん」の踊りで大いに盛り上がりました。

また、元看護部長の岸本トキ子さんが秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受賞されるとの報告があり、荒木きみ枝看護部副部長から花束が贈呈され満場の拍手で祝福されました。

続いて、浜中豊課長の司会と竹越襄副理事長のご協力を得て「なにから食べよかな？」のゲームが行われ、上位のチームに素適な賞品が贈られました。

なごやかに宴会が進む中、御歳92才になられた西東利男先生（顧問）から元気なお言葉を頂き、会員から大きな拍手が贈られました。

午後８時半、新谷喜美子副会長から閉会の挨拶あり、名残を惜しみながら来年の再会を祈念して、懇親・懇談会を終了しました。

決算・予算＜報告＞

平成16年度　収支計算書

（自　平成16年４月１日～至　平成17年３月31日）

（単位：円）

収入の部			
科　目	予　算	決　算	備　考
会費収入	1,620,000	1,682,400	年会費1,200円×1,258名（現職員） 年会費1,200円×34名（前職員） 終身会費12,000×11名
懇親会費等収入	180,000	308,000	
会費収入	180,000	231,000	懇親会費　3,000円×77名
酒肴料	0	77,000	祝金　3名
雑収入	1,000	8	受取利息
前年度繰越金	110,370	110,370	
収入の部合計	1,911,370	2,100,778	

支出の部			
科　目	予　算	決　算	備　考
事業費	1,100,000	1,344,208	
会報発行・学報郵送	600,000	642,780	会報第14号の作成、配付
親睦会	500,000	701,428	11/5開催
事務費	120,000	153,918	
交通費	20,000	20,400	
消耗品費	20,000	0	
通信費	50,000	70,505	
慶弔費	10,000	18,431	
雑費	20,000	44,582	
事業積立金	400,000	400,000	
予備費	50,000	0	
次年度繰越金	241,370	202,652	
支出の部合計	1,911,370	2,100,778	

財 産 目 録

（平成17年3月31日現在）

（単位:円）

Ⅰ	**資産の部**	602,652
	（1）現金預金	202,652
	1．福井銀行金沢医科大学病院支店 普通預金	*32,412*
	2．郵便局　郵便振替	*170,240*
	（2）その他資産	400,000
	1．事業積立金（定期預金）	*400,000*
Ⅱ	**負債の部**	0
Ⅲ	**正味財産の部**（Ⅰ—Ⅱ）	602,652

※事業積立金400,000円を積立てた

平成17年度　収支予算

（自　平成17年４月１日～至　平成18年３月31日）　（単位：円）

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
会費	1,656,000	事業費	1,200,000
親睦会費等収入	210,000	会報発行･学報郵送	600,000
雑収入	1,000	親睦会	600,000
前年度繰越金	202,652	事務費	160,000
		交通費	20,000
		消耗品費	20,000
		通信費	70,000
		慶弔費	10,000
		雑費	40,000
		事業積立金	400,000
		予備費	50,000
		次年度繰越金	259,652
収入の部合計	2,069,652	支出の部合計	2,069,652

事務局だより

◆会費納入のお願い

本会は会員皆様の会費収入で、会報の発行、親睦会の開催及び大学支援事業を行っています。

退任・退職される会員には会費納入方法として、年会費納入方法と終身会費納入方法のどちらかを選択のうえ納入下さいますようお願い致します。

終身会費 12,000 円
年会費 1,200 円

《振 込 先》 郵便振込口座 金沢医科大学北斗会
00710−6−23197

◆お便りなどお寄せください

会員の皆様の随筆、短歌、俳句、写真、その他近況に関するお便りを掲載し誌面の充実を図っていきたいと思っていますので、どしどしお寄せ下さい。(内容は自由です。)

◆変更事項等ご連絡ください

会員の皆様で、転居、結婚等で情報に変更がありましたら、下記北斗会事務局までお知らせ下さい。

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1−1
金沢医科大学 教育研究事業推進室
TEL (076) 286−2211 (内線 2720〜2724)
FAX (076) 286−8214
E-mail fund@kanazawa-med.ac.jp

◆金沢医科大学北斗会役員のご紹介

平成17年12月1日現在

役職名	氏 名	職指定	役職名	氏 名	職指定
顧 問	西 東 利 男		幹 事	西 尾 浩 次	技術職・現
会 長	奥 名 洋 明		〃	神 戸 晃 男	技術職・現
副会長	水 株 正 紀	監 事	〃	大 森 政 幸	技術職・現
〃	北 川 伴 次	会報編集委員長	〃	中 川 明 彦	技術職・現
〃	新 谷 喜美子	看護職・退	〃	辻 口 徹 子	看護職・現
幹 事	岸 本 トキ子	看護職・退	〃	宮 下 孝 子	看護職・現
〃	高 山 静 子	看護職・退	〃	村 下 智 子	看護職・現
〃	杉 本 末 子	看護職・退	〃	中 越 滋 子	看護職・現
〃	佐 藤 能里子	技術職・退	〃	中 農 理 博	一般職・現
〃	山 田 俊 昭	技術職・退	〃	荒 田 満	一般職・現
〃	高 田 稔	技術職・退	〃	浅 野 進一郎	一般職・現
〃	河 崎 信 夫	技術職・退	〃	中 山 正 喜	一般職・現
〃	飛 田 明	技術職・現	会計監事	大 田 修	職指定・現
〃	百 成 富 男	技術職・現	〃	松 井 道 子	看護職・退

(任期：平成16年8月21日〜平成19年8月20日)

◆会 員 数

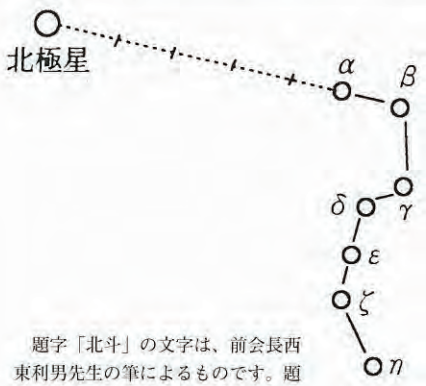
平成17年12月1日現在

区 分	人 数 (人)
現任・現職会員	1,283
退任・退職会員	1,093
合 計	2,376

―― 編 集 後 記 ――

・初雪が昨年より19日早く降りました。これからの積雪情報が大変気になるところです。
・昨年は、宇宙飛行士野口聡一さんが、宇宙へ日本の代表として飛び出していきました。ある、お騒がせ人物が、「低価額（？）で宇宙旅行を近年中に出来るように計画していく」と言っています。庶民の私たちが旅が出来るようになるには、あと何十年先のことになるでしょうか。
・機能評価活動真っ最中。新館も建ち、21世紀集学的医療センターも開設され、看護学部の設立に向けての準備も進み、大学は発展し続けています。より質の高い医療と患者さんが安心して受けられる医療をめざしがんばっています。
・この北斗会会報第15号にご寄稿頂きました会員の方々に心からお礼申し上げます。最後に、会員の皆様のより一層ご自愛のほどお祈り申し上げます。

（A.M 記）



題字「北斗」の文字は、前会長西東利男先生の筆によるものです。題字に重なっている７つの点は、北斗七星を表しています。杓の先α～βの長さを５倍伸ばしたところに、北極星（又は北辰）があります。

発行日　平成18年１月20日

北　斗　第15号

発　行　金沢医科大学北斗会
会長　奥 名 洋 明
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学　教育研究事業推進室
TEL　(076) 286－2211（代）
(内線 2720～2724)
FAX　(076) 286－8214

編　集　金沢医科大学北斗会会報編集委員会
北 川 伴 次　圓 田 兼 三
神 戸 晃 男　佐 野 泰 彦
前 沢 明 美　坂 尾 光 一
百 成 富 男　辻 口 徹 子
荒 木 きみ枝　中 山 正 喜
以上10名